

2025-6-17 ならしの市史編纂についての報告

「習志野 その今と昔」(平成 16 年改訂の横書き版)の改定が予定されているようです。エピソードとしては、昭和の後半から平成時代の情報が加わるのではないのでしょうか。(ならしの朝日記事より)

7月には、習志野市史編纂作業を通して見えてきたことについての「講演」が開催予定されています。(市広報4月15日号「公民館学級講座」参照)

当冊子の編集経緯を調べてみると、当初、(s49 年)「ならしの風土記」(市広報記事)→「わたしたちの郷土 習志野」版(社会科教科書副読本、s54年広報課発行)が→平成2年に市史編纂作業の進展に伴い改訂がなされ、「習志野 その今と昔」(縦書き)が刊行され、

さらに、平成16年には「習志野市史 民俗」編の刊行により、横書きに改訂されています。

今回は、どのような改訂なのかはわかりませんが、史実解説、史料のチェックや、昭和時代の後半から平成時代のエピソード情報、行政のまちづくり路線を展望し、文教住宅都市を標榜した昭和時代の総括、評価等が加えられた「令和版」として改訂されることを期待します。

新版「習志野 その今と昔」 習志野市教育委員会発行(市 HP より)

『新版 習志野—その今と昔』は、習志野市の歴史を、わかりやすい文章と写真・図表を用いてまとめた読み物です。

市立図書館全館でご覧いただけます。

また、習志野市庁舎 2 階の社会教育課窓口で販売しています(1 部 1,000 円)(市 HP より)

(経過)

習志野教育百年史 編集 将司 正之輔(元教育長) 習志野市教育研究所発行

習志野市史編纂の前に習志野市教育研究所(当時所長三上文一)において4か年計画にて習志野教育百年史の編集企画が計画されておりました。←久々田風土記(瀬山とみ)他

第1年次(昭和47年度)明治時代の教育、

第2年次(48年度)大正時代の教育、

第3年次(昭和49年度)昭和時代の教育、第4年次、採集資料、原稿の整理、編集、刊行、でした。

文教住宅都市建設へのまちづくりの基盤をなす教育の3方針、「家庭教育、学校教育、社会教育樹立」の礎が語られています。図書の趣旨文をご覧ください。

(まとめ・メモ)

習志野市の市史編纂は、長い時間をかけて発展してきた重要な事業です。

1. 市史編纂の始まり

習志野市の歴史を記録し、市民に伝える取り組みは、昭和50年代から本格的に始まりました。

市民の多くが戦後の転入者であることを踏まえ、地域の過去を知る機会を提供することが求められていました。←市行政広報課の所管事務でした。

昭和51年には市史編纂のための資料収集が開始され、昭和55年には教育委員会内に市史編さん係が設置されました。

2. 「わたしたちの郷土 習志野」(昭和54年 市企画室 広報課)の刊行(以下、発行趣旨文)

<http://s-kawano.cocolog-nifty.com/blog01/2025/05/post-adcdad.html>

(要旨)

昭和54年(1979年)、市民に郷土の歴史を理解してもらうため広報掲載記事「習志野風土記」をもとに編年時代区分による『わたしたちの郷土 習志野』が発刊されました。

この冊子は、戦後の都市発展や住民構造の変化を背景に、習志野市の歴史をわかりやすくまとめたもので、市民の郷土理解を深めることを目的としていました。

3. 「習志野市史」編纂事業(平成2年～平成7年)

昭和57年度から市史編さん委員会と編集委員会が組織され、市内外の史料収集が積極的に行われました。

市史編纂委員会:委員長 織戸勝雄

市史編集委員会:委員長 小笠原長和(千葉大)→平成元年7月第一法規出版社へ委託

委員長 大谷貞夫(國學院大學)

川名 登、堀江利次、中村 勝

平成2年(1990年)から平成7年(1995年)にかけて、市の歴史をより体系的に記録するための「習志野市史」編纂事業が推進されました。

この期間中に、歴史資料の収集・整理・調査が行われ、古文書講座(s57～s58 20回開催)や市史研究会の活動((研究会誌、日誌、古文書講座参加者感想文)を通じて市民との交流が深められました。

昭和61年3月 第二巻 史料編(1) 発行

習志野市が時代の要請に応じて市史編さん史料の収集活動を開始したのは昭和五十一年のことで、前市長吉野孝氏のもとに企画され、市企画調整室広報課所管の事業であった。昭和五十五年四月からは、教育委員会文化課市史編さん係として発足し、昭和五十七年度からは、事業の基本構想を定めるための組織として市史編さん委員会、実際の業務を行うための組織として市史編集委員会が設けられて、本格的に、また積極的に活動をくりひろげることになった。

市史編さん事業の目的は、市のこれまでたどって来た歩みをでき得る限り正確に跡づけ、市民のための正しい歴史を公刊することである。習志野市は、人間性豊かなまちづくりを目ざして、「文教住宅都市憲章」をかかげる市である。市民の郷土への理解と愛着のこころを深め、市の今後の繁栄と、市民の明日への生活の指針となって役立つような市史であることが望まれる。

正確な歴史をつくるためには、可能なかぎり豊富に史料をあつめなければならない。祖先ののこした史料や文化野は、過去の事実を伝える貴重な証拠物件であるが、首都圏の一角を占め、急激に開発が進められつつある本市及びその周辺の場合は、特にこれらの史料の所在をつきとめ、その散佚をすこしでもくい止め、保存の方法を考え、これを後世に伝えるように努力することが急務であって、この一事だけをとりあげても、市史編さん事業は重要な意義をもっている。

本市城は面積約二〇・七九平方キロメートルというミニスタイルの市である。市内および市の周辺地域と市に關係のある重要な問題については、かなり徹底した史料集、調査を実施して今日に及んでいる。昭和五十九年十月には、その成果の一部である約二千点の史料を収めた「習志野市史料所在目録」を刊行した。

この史料調査と目録作成の成果の上に、通史一卷と史料編二巻とが編まれることになったのである。通史は一定の学問的水準を保ちながら、市民の要求に応え、平易で、市民に親しまれる内容のものであるべきである。また、はやりすたりのない歴史事実を伝えた史料集の公刊は、古くなるほどにその価値を高めて行くものである。

本巻は、市の東部にあたる牧・街道つきの村々を旧村別に編成した史料集で、それぞれに解説を付している。また、この地域についての理解を深めるために、著しい地域的特色を示す史料として、小金野と牧の關係史料、鹿狩と村々の關係史料、東金御成街道關係史料の三つを重点的にとりあげ、それぞれ地方色豊かな史料をえらんで収載し、各々の項について時代別の解説を付している。このような企画は、習志野市史においてはじめてみられることであり、本書の刊行によって、今後この地域の歴史研究の発展に寄与することと思われる。

本書は、市長三上文一氏、市教育長杉田眞氏および市当局の深い御理解と、史料所蔵者各位の御協力と、市民各位の熱意のこもった御声援と、各委員、調査専門委員、協力員の各位をはじめ、多くの方々の献身的な御努力によって成った。

平成5年3月 第三巻 史料編(Ⅱ) 発行

私達は、お互い自分の「ふるさと」について、広く深く知りたいと思っています。そして、今日の平和と発展を築きあげてくれた偉大な祖先の献身や奉仕を心に刻み、自分自身を励ます糧にすることがいかに大切なことかを知っています。

昭和五十七年度に習志野市史編さん事業は、八年の事業計画をもって本格的に始まり、昭和六十一年三月に史料編編川を

上梓いたしました。

その後種々の事情により計画は遅延したものの、習志野市民の文化遺産を発掘し・保存し・歴史として記録する、この重大な事業を、どのようにして効率よく計画的に進めていったらよいかの検討を重ねてまいりました。

その結果、平成元年七月、第一法規出版株式会社への委託が決定し、国学院大学の太谷先生を中心として、再出発することが出来ました。そして、次のように編さん事業の基本方針を定めました。

@本市の歴史的発展過程を、史実によって解明した学問的水準の高い市史であるとともに、市民の要求に応え、かつ平易で親しみやすく、本市の発展に役立つものであること。

@ 右要件を充足するために、歴史研究者、市民、行政とが、一体となって編さん事業を推進し、参加する市民層を拡大する施策を並行して行なう。

③ 時代と共に変遷してきた市民の生活を、独自のテーマによって究明描写し、本市の市史の独自性を打ち出す。さらに本事業の期間を、昭和五十七年四月一日より平成七年三月三十一日までとし、その間に史料編曲・史料編画・通史編を発刊する。

平成6年3月 第四巻 史料編(Ⅲ) 発行

平成五年度に引き続き「習志野市史第四巻史料編(Ⅰ)近現代」をここに刊行し、市民の皆様にご覧いただけますことは、私達にとって限らない喜びであります。

歴史とは、つまるところ悠久の時の流れにおける人間の営みでありましょう。過去何百年、何千年に亘って積み重ねられてきた、人間生活の総和集積が歴史であり、それを学ぶことにより、現在及び未来への道標を得ることができるのです。

市史編さん事業の意義は、先人のこれまで辿ってきた歩みをでき得るかぎり正確に跡づけ、市民のための正しい歴史を公刊することです。このことが、「文教住宅都市」習志野市民の郷土への理解と愛着の心を深めるとともに、市の今後の繁栄と明日への生活の指針となって役立つことでありましょう。

ここに「近世」に引き続いて「近現代」の史料編が刊行されますことは、右の目的におおいに貢献するものと信じます。そしてその陰には、近現代部会の先生方の精力的な史料の調査、研究の努力があったからのことであり、その並々ならぬご労苦を推察し、深い感謝の念にたえません。

それとともに、快く貴重な史料を提供してくださった所蔵者各位、度重なる調査に際してご協力くださった関係者の方々に、裏心より敬意と感謝を申し上げます。

平成7年3月 第一巻 通史編 発行

郷土への理解と愛着を深め、郷土の繁栄を願う心を培うために進められてきた習志野市史編さん事業は、このたび史料を基に習志野市の歴史の全体像を明らかにした『習志野市史第一巻通史編』の刊行の運びとなりました。

これにより、既刊の史料編三冊・史料目録二冊・市史広報版『習志野—その今と昔』とあわせて七冊の刊行物を取り揃え、文教住宅都市としての習志野の歴史的歩みを明らかにすることができました。

思い起こせば、昭和五一年、市企画調整室広報課所管事業としてスタートし、同五五年に教育委員会文化課担当の事業となり、さらに平成元年、新組織・新事業として再出発をしました。その間、幾多の問題・課題に直面しながらも、多くの関係者各位のご厚情をいただき、この日を迎えることが出来ましたことはまことに喜びにたえません。この市史編さん事業は、本市としての独自性を持ちながらも、史料に基づいた学問的水準の高い市史を刊行することです。

この通史は、平易で読みやすく、市民の学問的追求の要求にこたえ、本市の発展に寄与することの出来る市史の編さんを目指して参りました。

4. 「習志野 その今と昔」(平成2年版)への継承

平成2年には、『わたしたちの郷土 習志野』の内容を発展させた『習志野 その今と昔』が刊行されました。(趣旨文参照)

<http://s-kawano.cocolog-nifty.com/blog01/2025/05/post-61d987.html>

(要旨)

この書籍は、市民が郷土の歴史に親しみを持てるように、より詳細な歴史資料とともにまとめられています。戦後の急速な都市化の背景や、地域の成り立ちを多角的に描き、編年時代表記により、市民の歴史的理解をさらに深めることを目的としています。

5. 「習志野市史」の刊行とその後

平成7年には『習志野市史 通史編』が刊行され、市の歴史を年代順に詳しく記述しました。(編纂趣旨、計画、編集方針、史料、通史)

<http://s-kawano.cocolog-nifty.com/blog01/2025/05/post-fc9f79.html>

習志野市史 通史編 目次

[習志野史.pdf](#)

IV巻 通史編(発行趣旨)

<http://s-kawano.cocolog-nifty.com/blog01/2025/05/post-c418d5.html>

(要旨)

これにより、市史編纂事業は一応の完結を迎えましたが、その後も市民の関心を高めるために『習志野 その今と昔』の改訂版が発行されるなど、継続的な取り組みが続いています。

このように、習志野市の市史編纂は昭和から平成にかけて段階的に進められ、地域の歴史を広く市民に伝えるための重要な取り組みとして発展してきました。

市民の協力と関心を集めながら、郷土史研究の機運を高めてきたのです。

6、平成16年3月 習志野市史 別編 民俗

郷土への理解と愛着を深め、郷土の繁栄を願う心を培うために進められてきた習志野市史編さん事業は、このたびの

「別編民俗編」の刊行をもって、一応の完結を見ることになりました。

思い起こせば、昭和五五年、市企画調整室広報課所管事業としてスタートし、同五五年に教育委員会文化課担当の事業となり、さらに平成元年、新組織・新事業として再出発をいたしましてから、およそ三〇年。その間、幾多の問題・課題に直面しながらも、多くの関係者各位のご厚情をいただき、五冊の『市史』を刊行することができましたことは、まことに喜びにたえません。これで、習志野市の歴史を調べる上での離針盤とも言えるものが完成したとも言えます。

本書は、平易で読みやすく、市民の学問的追求の要求にこたえ、本市の発展に寄与することの出来る市史の編さんを目指して参りました。この市史が、より多くの市民の皆様にご覧いただけることは、事業を進めてきた私どもにとって、無上の喜びであります。

倉石先生をはじめ、お忙しい中で地道に調査・執筆にあたられた先生方、また、調査にご協力いただき、貴重な資料を快くご提供下さった方々ならびに関係者の皆様に対し、衷心より敬意と感謝を申しあげます。ありがとうございます。

おわりに、習志野市史編さん委員であり、昨年の一二月にご逝去されました、大谷貞夫先生のご冥福をお祈りして結びの言葉と致します。